ただいま提案されております議員派遣のうち、来年1月の台南への派遣に反対の討論を行います。

これから行こうという皆さんの前で、いくべきでないという内容です。これほどやりづらい討論はありませんが、反対するからには理由を示さなければなりませんので、しばらくご辛抱ください。

私達は、海外視察は全てダメだとは考えていません。視察によって、本市が抱える問題、市民が直面している問題が解決する手段が見いだせるものであれば、大手を振っていくべきだと思います。しかし、皆さんもご承知の通り、議員の海外視察に対して市民の厳しい視線がある中、この台南の視察は本当に行く必要があるのでしょうか。

もちろん行けば現地との交流を通じ友好関係が深まる事は間違いありません。しかしこの理由を持ち出せばどこにでも行けることになります。どの国でもは遠路はるばる来てくれた人を歓迎するからです。藤枝に来たイタリアのオリンピックチームも例外ではありません。

台南と藤枝市が友好関係を築くことは当然必要でしょう。しかし現在の両市の関係は、台南の一企業であるエンタツと本市が連携包括協定を結び、お互いの商品の販路を開拓していく段階に過ぎません。今回、視察団とほぼ一緒の日程で（同行ではなく）商業観光局長と職員2名が台南に行きますが、本市の企業を現地の企業にマッチングさせる事が主目的です。これは基本的に執行部がやる仕事であり、議員がわざわざ出向いてまで行く必要は現在のところありません。

なお、同じ台南市と友好交流促進に関する協定を結んでいる都市に山形市があります。ここは企業ではなく自治体同士が協定を結んでいて、お互いの町の書籍、ポスター、扇子など、図書館で展示できる関連書籍を寄贈し合う「図書館交流事業」が具体化しています。私は山形市議会事務局に電話で聞きましたが、今年11月市長自ら出向くトップセールスに同行する形で初めて議長ら5名の議員が台南を訪問したとの事でした。台南に行くのであれば少なくとも自治体同士の協定なりが定められ、こうした交流事業が具体化してから行くべきです。山形市議会は他の場所への視察の予定はここ数年なく今後も全くないとの事でした。県庁所在地の議会でさえこの状況です。本市議会の台南訪問はどうでしょうか。翻って真剣に考える必要があると思います。

次に招待状の問題です。私たちは現地から招待状が来れば訪問しなければ失礼に当たると議題になるごとに発言してきました。台南市議会の議長から9月23日付で薮崎議長はじめ本市議会議員に招待状が届いております。

しかしこの文面には京都で開催した台湾産マンゴーの販売促進にわざわざ本市の正副議長が参加された事が書かれています。台南のメンバーは藤枝にこなかったわけです。恐らく、それまでの交流がある中でそうした話が出てきたと思いますが、そこまでされれば招待状を送らなければならない気持ちにならざるを得ないのではないか。

本来、招待状というのは、お互いの交流が深まったうえで何か祭事等あるときに「こちらに来ませんか？」と出されるのが普通です。私たちがヤンジュやペンリスに行ったのはそうした理由です。

なお、8月30日付の朝日新聞は、熊本市の市長始め6名の議員がフランスのエクスサンプロバンス市を訪問する事を報じています。1850万の予算がかかり、海外視察の事例は近年までなかったと批判的な内容です。記事によるとエクスサンプロバンス市と熊本市と交流都市関係にあり、日仏自治体交流会議に出席するため熊本市に招待状も届いているとあります。それでも記事にされるのです。市民の視線はそれだけ厳しいことを本市議会は今一度検討する必要があると思います。

最後に、本市議会の海外視察在りきの姿勢について触れなければなりません。

今回の台南訪問が具体的議題となったのは6月3日の会派代表者会議です。ここで「海外視察を行くことを前提に議論していただきたい」との提案がなされました。さらに10月2日の議会運営委員会のレジュメその他の所で同様の提起がなされ海外視察を行くべきとする採決が行われようとされました。

これでは行先が定まらなくても、どこでもいいから海外に行く事になります。議員派遣は海外国内問わず議決事項のはずです。行先も人数も期間も定まっていないのに、事前に行くべき事を決められるはずはありません。これは残念ながら原則を明らかに踏み外した暴挙です。

市民の税金を使っていく以上、どういう理由で視察に行くか明確にする必要があります。3年前、本市でイタリアドイツへの欧州視察が計画された際、15回もの検討会議を経て結局中止になりました。この時は行くべきかどうかを含めた議論がされました。私も参加していましたのでよく覚えています。しかし今回の海外視察研究会は台南に行く事がほぼ決まった後に発足しており、市民的議論は全くなされていません。

こうした経緯で海外視察を繰り返せば、必ず厳しい市民の批判を招きます。今回の台南視察は以上の理由で賛成するわけにはまいりません。